

買い物に行くのが楽に

佐藤 静子

【推進員認定期】第8期 【所属】視覚障害者団体「べにばな友の会」(視覚障がい者)【活動エリア】
桶川市

はじめに

私が目の病気を知ったのは、20歳の時にコンタクトを入れようと眼科に行った時でした。そして28歳で失明しました。その時、2歳5か月の長女と8か月の次女がいました。子育てに大変な時だったと思います。主人も、次女が生まれてからですが具合が悪くなり、車いす生活でした。推進員になりいろいろな方と知り合い、話し、学びました。

市社協主催の小学4年生を対象としたアイマスク体験や講話などで学校へ行きますが、小学校のマラソン大会、運動会、公開授業なども見に行き、応援してきます。子供たちや先生から声をかけられるとうれしくなります。福祉教育で学校へ行った後1か月ぐらいうると、生徒からのメッセージがテープに録音されてきます。それを聞くのも楽しみです。

体験記1 「越谷のスーパーマーケットにて」

今から12年ぐらい前のことです。職場から5分ぐらい歩いたところにその店がありました。見えている人には5分ですが、見えていない私には10分ぐらいかかりましたが、1週間に3～4回昼食を買ったり、夕食の食材を買いに行ったりしていました。

ある時、買い物を手伝っていただいた人と話をしていたら、以前に桶川の支店にいたとのこと。食品売り場の係長をしていたとのことでした。親密さを感じ、買い物の時にガイドしてほしいと頼んでみました。すると次回から、買い物に行った時にレジの人に言うとガイドしてくれ、買い物がしやすくなりました。

そのうち、入口の壁に呼び出しブザーがつき、数年たってからですが、車道から入口まで点字ブロックがつき、ありがたかったです。ほかの視覚障害者の人にも、その店では買い物がしやすいことを伝えてあげました。

体験記2 「旧中山道にて」

昨年11月ごろから、北上尾近くの中山道歩道の工事をしていました。砂利道で歩きづらく、毎年年末になるころから穴を掘り、よけい歩きにくくします。

昨年ときは大きな機械が数台あり、車道を通らないと歩けませんでした。

そこで、市役所に電話をかけ話をすると、

「こちらでなく 道路管理事務所に」

と電話番号を教えてくださいました。そこで、教えていただいた番号にかけ話をすると、

「毎日通るのですか？」

と聞かれました。こちらが視覚障害者であることも伝え、見えない人や車いすの人がそこを通るとき、怖い思いをしながら車道を歩かなくてはならないこと、いつまで工事をするのか？など聞いてみました。

そして、友達の姉が夜の仕事の帰りに工事中の穴に落ち、骨折したことを話し、

「けが人が出ないと対応してくれないのですか？」

と尋ねました。

そうしたらわかってくれ、できるだけ早く機械をどかすことや、工事の説明もしてくれました。電柱をどかす重機が数台あったようでした。

今年の3月25日に歩道は歩きやすくなり、点字ブロックもつきました。

体験記3 「買い物に行き」

久喜市のお店で買い物をしていた時のことです。母親と一緒に買い物に来た少女が、私のところに来て、

「お手伝いさせてください」

と言いました。私は、

「お母さんが心配するからね」

と言って、母親のところまで連れて行ってもらい、母親とお話をしました。母親も、

「この子が手伝いたいといっているのだから」

と、快く許してくれました。

少女と手をつなぎ、話をしながら買い物をしました。少女は4年生で、3姉妹の真ん中。子供ボランティアグループに入っていることなどを話してくれました。3人分のおやつを買って渡し、別れたが、心が熱くうれしかったです。

おわりに

今は職場が鴻巣にあります。越谷のお店には行っていませんが、どこの店に行っても買い物のガイドは依頼します。行く回数が増えると、お店の人はこちらを覚えてくれ、

「買い物ですか？ どちらの売り場ですか。」

と声をかけてくれるようになりました。

道路など危ない個所は、自分だけでなく、ほかの障害者やお年寄りも困ると思います。すぐには対応してもらえないと思いますが、根気よくわかってもらえるまで話すしかないと思っています。